

# 同志社大学

## 2013年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2014年3月4日提出

| 所 属              | 職 名   | 氏 名     |
|------------------|---|---------|
| 経 済              | 教 授   | 横 山 照 樹 |
| 研 究 題 目          | マルサス価値尺度論の研究  |         |
| 研 究 成 果<br>の 概 要 | <p>マルサスは1823年に出版された『価値尺度論』と、1836年に出版された『原理』第2版第2章の第4節と第5節で、価値尺度論を展開していた。そして、『価値尺度論』と第2版の議論とを対比すると、次のような特徴があることが明らかになった。</p> <p>第2版の第4節では「商品に含まれる労働は、その価値の主要な原因であるが、しかし、それはその尺度ではないことが」明らかにされ、第5節では「商品が支配する労働は、その価値の原因ではないが、その尺度であることが」明らかにされていた。したがって、マルサスの価値尺度論が展開されていたのは、主として第5節であるということになる。</p> <p>そして、その第5節では、商品が支配する労働がその価値を尺度することの論証が、2つの方法で行われていた。1つは、標準労働が存在していることを前提して、同じ国の異なった時期や、同じ時期で国が異なっている場合にも、各々の商品が支配する労働によって、価値が比較できることを論証することである。そして、もう1つの方法が、標準労働が存在しないと仮定した場合でも、同じ国の同じ時や、同じ時の異なった国で、商品の価値をそれが支配する労働量によって比較できることを、論証することであった。そして、その場合の基礎理論となっていたのが、「価値の自然的要素」についての議論であった。そして、後者の議論は『価値尺度論』に存在していたが、前者の議論は、『価値尺度論』には存在していなかった。</p> <p>したがって、この点が『価値尺度論』と『原理』第2版との違いであった。</p> |         |